

# 所 管 事 務 調 査 報 告 書

調 査 事 項  
「学校施設の整備に関する事項」

調 査 期 間  
自 令和6年6月 ~ 至 令和7年5月

長泉町議会 建設文教常任委員会

# 目 次

- 1 はじめに
- 2 調査活動状況
- 3 学校施設の現状と課題
- 4 これからの学校施設の在り方
- 5 具体的な提言
- 6 おわりに

## 【付属資料】

先進地行政視察報告

- ◆東京都府中市立府中第一中学校
- ◆茨城県つくば市立みどりの南小学校

## 1 はじめに

学校施設はその多くが、児童生徒数が急激に増加した昭和 40 年代前後に建てられており、老朽化が全国的な問題となっている。

当町には、小学校 3 校、中学校 2 校、合計 19 棟の校舎があるが、そのうち 14 棟が築 40 年を経過しており、最も築年数の古い校舎は築 64 年となる。

一方、首都圏からのアクセスの良さや子育て支援施策が評価され、人口は増加、それに伴い児童生徒数も増加し、プレハブ校舎の建設を行うほどの教室不足に陥っている。

インフラ長寿命化や公共ストック活用の観点からも、効率的かつ効果的な学校施設の整備は喫緊の課題であり、令和 3 年には「長泉町学校施設整備基本方針」が策定され、整備を進めるにあたっての考え方が示されたところである。

また、社会の急激な変化が教育環境に与える影響は大きく、特に 1 人 1 台端末の導入以降、学びのスタイルは多様に変容しており、全ての子どもたちが安全・安心に学ぶことができる環境を実現するためには、幅広い観点から学校施設を最適化していく必要がある。

こうした背景を踏まえ、当委員会では、これからの子ども達の新しい時代の学びを支える、魅力ある教育環境の実現に向け調査・研究を行うとともに、まさにこれから計画的整備を進めていく町に対し、学校施設の整備の在り方を提言することとした。

## 2 調査活動状況

区分	開催日	協議内容
	令和6年6月14日	建設文教常任委員会所管事務調査設置
第1回	令和6年7月31日	1 調査内容の共有 2 スケジュールの確認
第2回	令和6年9月30日	1 町の現状確認 (1) 長泉小学校現地調査
第3回	令和6年10月3日	1 町の現状確認 (1) 長泉幼稚園・中央保育園・長泉中学校現地調査 (2) 町内教育施設等の現状と課題について
先進地視察	令和6年11月10日 ～ 11月11日	1 先進事例の調査・研究 (1) 東京都府中市立府中第一中学校 (2) 茨城県つくば市立みどりの南小学校
第4回	令和6年12月10日	1 先進地調査を踏まえた意見交換 2 提言に向けた意見集約・論点整理
第5回	令和7年1月14日	1 先進地調査を踏まえた意見交換 2 提言に向けた意見集約・論点整理
第6回	令和7年2月17日	1 調査報告書の素案について
第7回	令和7年3月21日	1 調査報告書の最終案について

### 3 学校施設の現状と課題

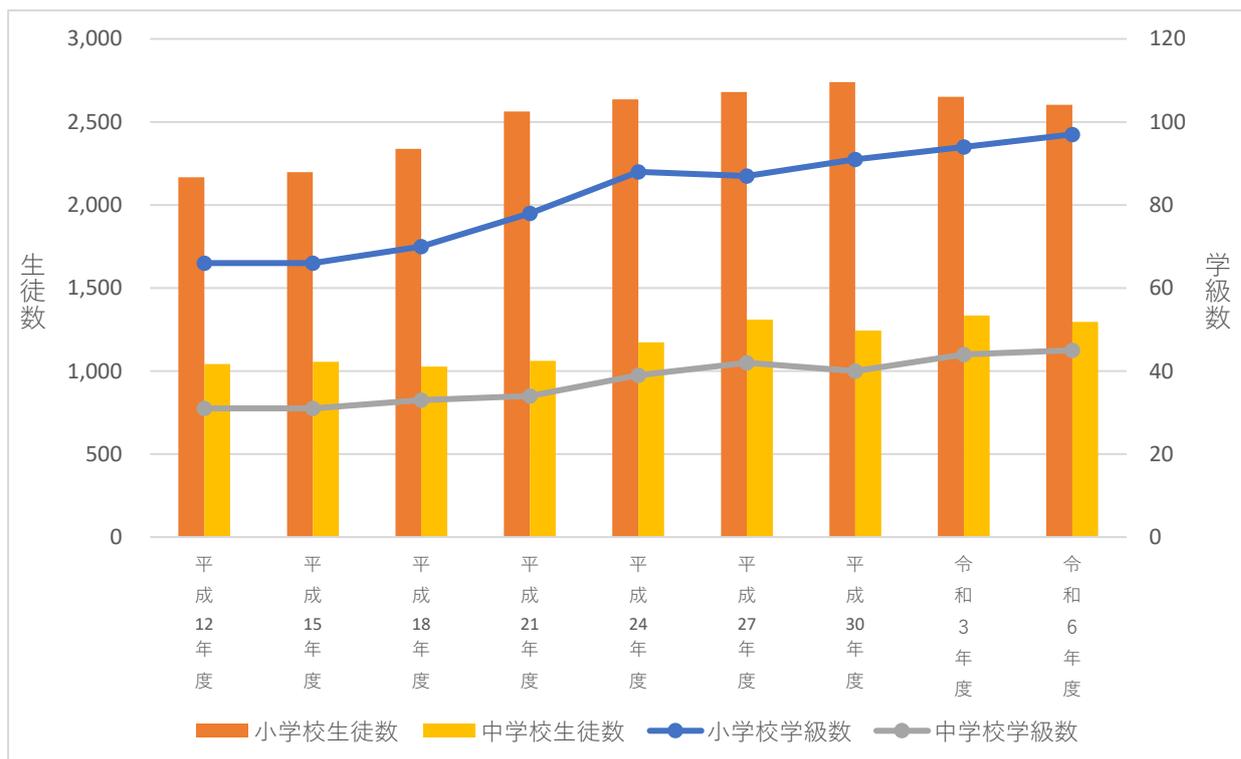
#### (1) 現状

調査を開始するにあたり、町の学校施設の現状を共有した。各校舎の築年数及び児童生徒数の推移は以下のとおりである。

#### ①校舎の築年数

学校	最も古い校舎		建築年月	築年数
	校舎	体育館		
長泉小学校	校舎（北－東）		昭和 38 年 4 月	62 年
		体育館	昭和 49 年 1 月	51 年
南小学校	校舎（南－東）		昭和 40 年 3 月	60 年
		体育館	昭和 47 年 1 月	53 年
北小学校	校舎（北－東）		昭和 47 年 4 月	53 年
		体育館	昭和 49 年 11 月	50 年
長泉中学校	校舎（南－東）		昭和 35 年 10 月	64 年
		体育館	昭和 46 年 12 月	53 年
北中学校	校舎（南－東）		昭和 50 年 3 月	50 年
		体育館	昭和 52 年 2 月	48 年

#### ②児童生徒数・学級数の推移



## (2)課題

続いて、長泉中学校・長泉小学校・長泉幼稚園・中央保育園にて現地調査を実施し、老朽化や施設の使用状況等について調査を行った。

現学校施設における課題については令和3年に策定された「長泉町学校施設整備基本方針」においても示されているところであるが、現地調査により実際に施設を確認した中で各委員が抽出した課題は以下のとおりである。

### 教育・学習活動上の課題

- 児童生徒が自主学習やミーティングなどを行う多目的スペースが不足している。
- 職員室が狭く、会議室が不足している。教職員が連携・協働しやすい環境整備が必要。

### 学校生活上の課題

- バリアフリー化改修工事は行われているものの不十分。多様な生徒への配慮も必要。
- 採光が十分でなく、教室を含む校舎全体が暗い。
- 廊下が狭く、収納しきれない教材等が廊下に多く置かれている。災害時における安全上の懸念がある。

### 児童生徒数増加への対応

- 児童生徒数の増加によりプレハブ校舎の建設が必要なほど教室が不足している。
- 教職員用の駐車場不足により敷地を圧迫している。専用外スペースにも駐車されており児童生徒の登下校や活動時における安全上の懸念がある。

### 新たな役割への対応

- 地域住民への開放が体育館・運動場に限られている。
- 避難所としての機能を考慮し、体育館に冷暖房の整備が必要。

## 4 これからの学校施設の在り方

現施設の課題抽出、先進地視察による先進事例の研究を経て、「現施設の課題を解決するために必要な機能」、「これからの学校に求められる機能」について議論し、学校施設の在り方を以下の5つの項目に集約した。

### (1)教育環境の充実

全ての児童生徒の可能性を引き出し、主体的かつ協働的に学ぶことのできる空間であると同時に、少人数学習やデジタル教育、インクルーシブ教育など、さまざまな教育・学習スタイルに柔軟に対応できる施設であること。

### (2)生活環境の充実

長時間を過ごす生活の場として、全ての児童生徒が過ごしやすい快適な環境であること。

### (3)地域との連携

今後の学校運営は教職員以外の外部人材や地域住民の協力が不可欠であることから、児童生徒が地域と連携・協働しやすい施設であること、また、子どもたちを支える地域住民と一緒に施設を有効活用できる施設が望ましいこと。

### (4)環境への配慮

断熱性能の確保や自然エネルギーの活用など、省エネルギーで快適な室内環境が保たれるよう環境に配慮した施設であること。

### (5)災害に強く安全で快適な設備

児童生徒が安全・安心に過ごすことができるよう施設全体の安全性が確保された施設であるとともに、避難所として必要な機能が備わった施設であること。

## 5 具体的な提言

「4 これからの学校の在り方」に示した5つの視点に基づき、児童生徒にとって望ましい環境要件について更に議論を深めた。その結果、次のとおりの機能を有することが望ましいとの結論に至ったため、町に提言する。

### (1)教育環境の充実

#### ①新たな学習スタイルへの対応

##### ア ICTを活用した学びへの対応

1人1台端末の活用を含む多様な学習活動を支えるためには、ゆとりある空間の整備が必要である。端末使用に適した什器の選定やロッカー配置場所の工夫などにより教室を学びの空間として整えることが求められる。

例) ●端末と教科書の併用を考慮し、天板の広い机を整備する。

●ロッカーや器具庫等を教室外に設置し、教室全体を学習専用空間とする。

##### イ 学習内容にあわせた特別教室

特別教室は学習内容や学習規模にあわせ最適化する必要がある。また、将来的な地域開放も視野にその配置には工夫が求められる。

例) ●音楽室は、音響や遮音性に配慮し設計する。

●外国語教室は、視聴覚・情報機器を設置する。

##### ウ 多目的に利用できる教室

少人数学習への活用のほか、児童生徒の自主学習やミーティングなどにも活用できる学習室や多目的室の整備が必要である。将来的な児童生徒数の増減にも柔軟に対応できるよう間仕切りの工夫なども求められる。

##### エ 多様なメディアを活用した課題解決型図書館

読書だけでなく、デジタル端末を含む多様な媒体を活用し、児童生徒自らが課題を解決するために自由に利活用できる図書館の整備が必要である。また、地域開放も視野に入れ、児童生徒と地域が協働で活用できる象徴的なメディアセンターとしての整備が望ましい。

## ②多様な教育的ニーズのある児童生徒への対応

### ア 特別支援のための柔軟な学習空間

主要動線に面することなく落ち着いて過ごすことのできる空間を確保し、クールダウン等適切な指導、必要な支援を可能とする環境の整備が求められる。

学習スペースにあっては少人数学習やグループ学習など、学習内容や一人一人の特性に合わせ柔軟に対応できる教室の整備が必要である。

### イ インクルーシブ教育の充実

バリアフリー化やユニバーサルデザインの導入により性別や国籍、障がいの有無に関わらず共に学ぶことのできる空間の整備が必要。また LGBTQ など多様性に配慮した設備の設置も求められる。

例) ●エレベーターや「みんなのトイレ」を設置する。

●普通学級と特別支援学級の児童生徒が共同で使えるラウンジを設置する。

## (2)生活環境の充実

### ①居心地の良い生活空間

#### ア 多目的に利用できる空間

多目的に利用できる開放的なラウンジや小空間としてのフリースペースなど、児童生徒が個々の状況に応じてリフレッシュや交流の場として利用できる大きささまざまな空間の整備が必要。

#### イ 温もりのある快適な空間

自然採光や通風に配慮し、内装に木材を活用するなど快適で温かみを感じる空間の整備が必要である。また、教材等が学習空間・生活空間を圧迫しないよう収納庫等を豊富な整備、ゾーニングが求められる。

#### ウ 感染症対策や多様性にも配慮した衛生的な設備

通風への配慮や空調設備、非接触型機器など感染症流行に備える設備が必要である。トイレにあっては、多様性への配慮を十分行うとともに、洋式化や床の乾式化、配置の工夫などにより衛生的で使いやすい空間であることが求められる。

## ②児童生徒の心のケアを行しやすい空間

動線や配置の工夫によりさまざまな悩みを抱える児童生徒及びその保護者が相談に訪れやすい保健室、相談室の確保が必要である。

例) ●保健室・相談室は隣接して設置する。

●中庭からのアプローチを設けるなど人目を気にせず相談できる環境を整備する。

## (3)学校と地域の連携

### ①地域住民のための施設開放

体育館のほか家庭科室、音楽室、多目的室などの地域開放を視野に、災害時やセキュリティにも配慮したゾーニング計画が必要である。

### ②教職員の働く場としての機能向上

教職員が効率的に校務や授業の準備などが行え、教職員同士が連携・協働しやすいゆとりある職員室や会議室の確保が必要である。

また、多忙な教職員の心理的な負担軽減を図るとともに、教職員の多様性にも配慮した設備の確保が求められる。

例) ●開放的な執務空間、ミーティングスペースを整備する。

●教職員が自由に使える休憩スペース、コミュニケーションスペースを確保する。

## (4)環境への配慮

### ①エコスクールの推進

断熱性能の確保や自然エネルギーの活用、木材の利用など、ZEB化を考慮した設計が求められる。また、消費エネルギーの可視化など、取組の成果が環境学習の教材として活用できるような工夫が必要である。

## (5)災害に強く、安全な設備

### ①児童生徒の安全・安心の確保

子どもたちの生命や健康を守る基本的な安全対策のほか、有事の際の避難行動も考慮し、廊下や階段は十分な幅員の確保が必要である。

また、防犯カメラの設置や、構造上・配置上の工夫による校舎内外の視認性確保な

ど、防犯面への配慮が求められる。

## ②防災機能の強化

避難所として期待される役割を考慮し、自家発電設備や情報通信設備の整備、バリアフリー化など地域のニーズに対応できる機能の整備が求められる。

特に体育館にあっては断熱性能の確保や空調設備の設置、備蓄倉庫の併設など災害時の動線・利便性を考慮した設備設計を行うことが求められる。

## 6 おわりに

当委員会では、未来を担う子どもたちが安心して学び、育つ場として最適な環境を第一優先に、1年にわたり様々な視点で議論を重ねてきた。

本提言書で示したとおり、これからの学校施設整備は、教育の質向上だけでなく、防災機能の強化や地域との連携、持続可能性の観点が求められる。一方、長引く物価高騰が町の財政運営に与える影響は大きく、特に学校施設整備にあっては、人件費や資材の高騰など直接的な影響を及ぼすことが見込まれる。

行政におかれては、より一層、適切な資金計画、財源確保に努めるとともに、地域や関係機関と連携しながら、計画的かつ効率的な施設整備の在り方を追求し、より良い教育環境の充実に取り組んでいただくことを求めたい。

本提言により、未来を拓く人材の育成が図られ、更に住みよい、魅力あるまちとなることを期待する。

## 付属資料

### 先進地視察報告

#### ◆東京都府中市立府中第一中学校

敷地面積：25,400.93 m<sup>2</sup>

建築面積：6,113.82 m<sup>2</sup>

延床面積：11,794.49 m<sup>2</sup>

構造：鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 地上4階 地下2階

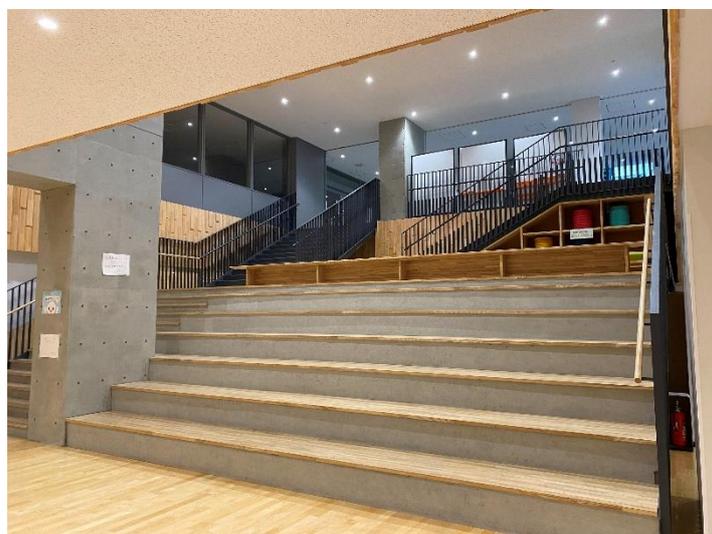
総工費（建物のみ）：72 億円

府中市内には小学校 22 校・中学校 11 校あるが、その3分の2が築50年超。令和元年度に府中市学校施設改築長寿命化改修計画を策定し、おおむね1年に2校ずつ、30数年をかけて学校施設の改築を行う予定。当初計画全体の事業費を1,370億円と見込んでいたが、教育ニーズの変化や建築費等の上昇により当該事業費では賄えず、計画の見直しを行っている。試算では1,800億円になるとの見込み。

府中第一中学校は、府中市学校施設改築長寿命化改修計画の第1期工に位置付けられ、令和元年度に改築事業がスタート。基本設計・基本計画は、PTA・学校関係者・自治会等と学校づくりのワークショップを行いながら策定された。



落ち着いたカラーの外観



生徒が集う「かしの樹ホール」



広く明るい廊下



教室周りに整備されたフリースペース



教室の外に設置された鍵付きロッカー



高窓を利用して自然採光・通風を確保



災害時にも利用される和室



特別支援教室に設置されたクールダウン用の教室

◆茨城県つくば市立みどりの南小学校

敷地面積：57,933.49 m<sup>2</sup> ※小・中学校等合計

施設面積：8,514 m<sup>2</sup>（校舎）、1,200 m<sup>2</sup>（体育館）

構造：鉄筋コンクリート造 地上3階

つくば市はTX沿線の開発に伴い子育て世帯が増加、令和2年3月につくば市学校等適正配置計画（指針）を策定し、校区の再編や新たな学校の建設が進められている。

みどりの南小学校は令和6年4月に新設された施設一体型の小中一貫校で、「多様な教育環境に配慮した学校づくり」、「地域に開かれた学校づくり」、「安全安心な学校づくり」、「長期定な将来を見据えた持続可能な学校づくり」、「人と環境に優しい環境づくり」をコンセプトに学校の整備が進められた。内装の木質化により校舎全体が木の温もりを感じる造りとなっており、児童生徒の学齢に応じた学習空間、生活空間が考慮され、ワーキングスペース、オープンスペース、多目的室が豊富に設置されている。

今後も児童生徒の増加が見込まれており、すでに隣接地への増築計画が進んでいる。



おしゃれな造りの外観



木の温もりを感じる広くて明るい廊下



教室に整備されたスピーカー



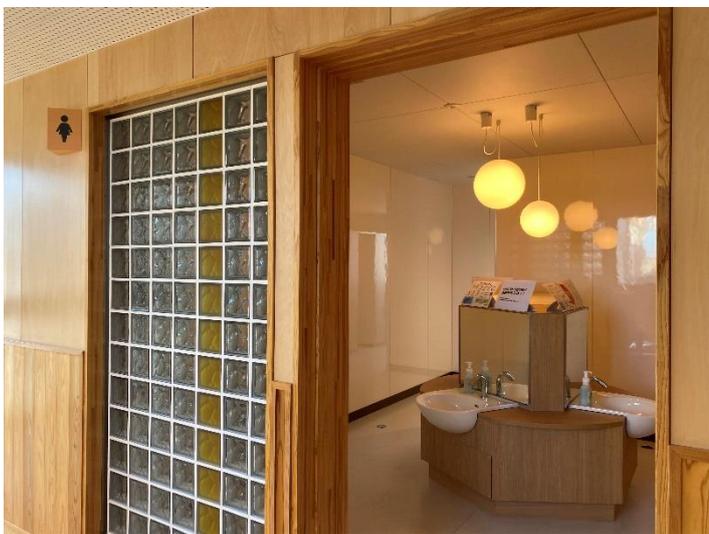
図書館と多目的室をつなぐ広いテラス



明るい図書館



男女ともに整備された更衣室



明るく清潔感のあるトイレ



消費電力や発電量を可視化